
Another Century's Episode G

キラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Another Century's Episode G

【Nコード】

N5879V

【作者名】

キラ

【あらすじ】

この作品は二次創作です。内容が嫌いな方はすぐにお戻りください。

この作品にはキャラ崩壊、原作ブレイク、パクリ機体、オリジナル設定、グダグダ、更新カタツムリ以下、軽音部だが演奏しないK-ONメンバー、戦闘シーンは上手くない、各原作をあまり知らない、などの要素が含まれます。

プロフィール（前書き）

粉碎！玉砕！！大喝采！！！！

プロフィール

キャラ紹介

オリジナルメンバー

キラ（男）

年齢 18歳

特徴

長身痩せ型

狂学者（男）

年齢 18歳

性格

「パンがないなら、空気を食べればいいじゃない」

ちろる（ ）

年齢 18歳

性格

「ウーロン茶を所望する!!」

特徴

太巻き

イッシイ（ ）

年齢 19歳

性格

「へへへ…きょうのパンツは何色だい？」

特徴

特殊刑事課（こち亀的）

例 食事の時間だ by 海パン

参戦キャラ

K・O・N

出てくる可能性が在る作品

コードギアスR2

機動戦士ガンダムシリーズ

機動戦艦ナデシコ（劇場版まで）

プロフィール（後書き）

もうやめて……！作者のLPPはもうOY……！！

最初のタイトルが思い付かない・・・

b y イ ッ シ イ (前書き)

ち「そういう物つてあるよね・・・」

狂「タイトルなんて糞喰らえ!!」

ち・狂「ヒャッハアアアアアアアア!!!!!!」

最初のタイトルが思い付かない……

b y イ ッ シ

夏真っ盛りな今日この頃、それは突然の事だった……

キ「あ”あ”あ”……蚊が!!蚊が!!……あつ!狂学者、シビレ罷仕掛けた」

狂「俺は遠くから、U・TSU・ZE　!!!」

ち「スタミナが……こんがり肉!!!!」

イ「畜生……PSP、持ってねえ……」

只今、絶賛遭難中の一行

何処かの森

イ「と、言うよりこの状況でなんでゲームしとるん!!」

ち・狂・キ「現実逃避!!!!」

イ「なんて清々しい返事!?!?!まあ、それは置いといて「コ」何処?」

狂「森!!」

ち「ハイッ!狂学者、10ポイント!!!!!!」

狂「よしっ!!」

キ「でも、何だかんだで原因お前じゃん？」

イ「様々な不幸が重なっただけだよ！！！」

ち「えっ？でも……………」

回想

キラ一行、お祭り参加中

キ「なんで祭りの屋台は基本的に値段が高いんだよ！！」

ち「なんでや！！」

イ「ハハハハハ……………」

狂「お腹が減ったなら、自分の体を食べればいいじゃん？」

キ「先生！！それは幾らなんでも厳しいです！！」

？「おゝいゝ！」

ち「……………なんでや……………」

D「久しぶりゝ俺だよ」

キ「パイナップルめ……………」

D「俺、今ハガレ　にハマってるんだ」

Dは某錬金の主人公がする、錬成の真似をした・・・

ビリリリリリリリリ！！！！

一同「！？」

ブワッ！

D「う、うわあゝ！！」

ダッ！

キ「逃げるぞ！！」

ガシッ！

キラは誰かに足を捕まれたので振り返るとそこには・・・

狂「お前も道連れじゃああああああ！！」

キ「キャーーーー！！」

状況説明

多分Dの精で空間が割れる

イッシイ落ちるがちろるに掴まる

ちろる、狂学者に掴まる

狂学者、逃げようとしたキラを道連れに・・・

現在

回想終了

ち「って訳だから、イッシイが悪い」

イ「いや、振り返ったらやっぱり悪いのはDだと思うんだけど・・・」

狂「何言ってる・・・・・・・・ハッ！」

ち「よし、帰ったらDと話し合おう」

キ「パイナップルめ・・・・・・・・」

ち「そろそろ、現実見ようか・・・・・・・・」

キ「・・・・・・・・うん」

一行は森を抜ける努力を始めた

最初のタイトルが思い付かない・・・

b y イ ッ シ イ (後書き)

キャラ紹介

D (男)

パイナップルが嫁

特徴

ああ、ダメだコイツ・・・早く何とかしないと・・・な感じ

そしてコイツの順番は・・・

もう無い!!--!--!--!

第1話 街を目指そう（前書き）

キ「なあ、ここコードギアスとガンダムが混ざった世界だよな」

ち「気にするな」

第1話 街を目指そう

森を抜けようと頑張るキラ一行

キ「なあ、いつになったら森から抜けるかな？」

ち・狂「さあ……」

キ「さあって、出られなかったらどうすんだよ!!」

ち「それは……」

狂「うーん……」

イ「腹減った……」

キ・ち「黙れー!!」

あんまり会話続かなくなりかけてた時……

ち「み…見る！出口だ」

狂「やったか…」

キ「ようやく…」

ピュン

一行「へっ！？」

ドカーン 目の前で爆発

一行「……」

一行「いやあああああああ！！！」

全力で逃げるキラ一行

キ「な…何だ今の！？」

狂「知るかああああああああ！！」

ち「いやああああああああ！！」

キ「ぬわああああああああ！！」

イ「お…お助けええええええええ！！」

キ「茂みに飛び込め！！」

ち「とおー！！」

狂「ふんっ！！」

数分後

ち「ふう〜」

キ「あゝ！！ビビった」

狂「あれっ？誰か足りないような」

キ・ち「……」

キ・ち・狂「イッシイ!!」

その後、イッシイを探し始めた

?「何者だ貴様は!!」

カチャッ 銃を突き付ける

イ「ひい」

ち「あっ、捕まってる」

キ「はあ、なにやってんだか」

狂「なあ、あいつらの後ろ!!」

キ・ち「ん？」

キ「あれ何？」

狂「キラちゃん、あれは「KMF」だよ！しかも、月下とサザーラントじゃん！」

ち「丁度、2機ずつだし、奪っちまおうぜ？」

狂「まあ、まちんしゃい…、どう奪うか考える」

キ「なあ、イッシイが撃たれそうなんすけど…。」

狂・ち「なに〜!!」

茂みから兵士にダイブ

兵士「ぐえつ、重い？」

兵士2「何者だ!!」

木の棒で後頭部を殴るキラ

兵士2「ふござ！？」

バタッ

狂「なんとか機体を確保したなあ」

ち「でも、これ…どうやって動かすの？」

狂「さあ」

ち・イ「おい？」

キ「適当に乗って、練習しよう…、それで慣れよう」

数十分後：

狂「ある程度慣れたなあ、みんなどう？」

キ「完璧さ？」

ち「何となく…」

イ「わからん!!」

狂「…、ふつ。イツシイ…。」

イ「何？」

狂「お前…シヨボいな!!!!」

イ「うるせえ？」

キ・ち「ぷつ!!」

意味が分からない人

狂「まあ…それはおいといて、このまま街を目指そう!」

一行「おー！ー！ー！」

キラ・イツシイ…月下

狂学者・ちろる…サザラント

その後、街に着いたが思わぬ、惨劇が待っていた…

第1章 E n d

第1話 街を目指そう（後書き）

キ「ランスロットか蜃気楼に乗りたかった！」

狂「キラちゃん…乗ったら死ぬよ！」

キ「ええ〜!!」

強奪ひゃっほおおー!! (前書き)

今回の作戦は…

強奪ひやつほおおー!!

キ「あゝあゝ、みなさん聞こえますか。聞こえたら返事しろ!!ど
うぞ…」

狂「へい、聞こえてんぞ!」

ち「同じく…」

イ「……………」

キ「ありや? イッシー!!」

イ「……………」

キ「…まっ いいか」

イ「って、おい!!」

キ「今更、返事か…」

イ「聞こえてたけど、どうやって返事したらいいか分からなかったんだぜ！」

ち「カッコつけるなよ」

狂「そ〜だ、そ〜だ」

イ「ゝ（ゝ（ノ ウワァン！！」

敵の基地付近

模擬戦：

キ「おゝ、やってるやってる！！」

狂「キラちゃん、此処へ何しに来たんだよ！いい加減教えるや」

ち「そ〜だ、そ〜だ」

キ「ふふっ。聞いて驚け！！この基地には、あの「ガヴェイン」があるんだぞ」

ち「本当に？」

狂「どうやって、パクるん！」

キ「アイツが来たら、突っ込むぜ！」

ち・狂「あゝ、アイツかあゝ」

イ「アイツ？」

キ「イッシイはここにいろよ！俺らだけでいくから」

イ「えっ！！何でや！！」

狂「突っ込んで死ぬなんてゴメンだから」

イ「ううううう」

ち「すぐ終わるから、多分」

キ「よし、裏側を通って行くぞー!!」

基地裏側…

狂「僕とちろるでガヴェーインを探して、乗り込めばいいんだな！」

キ「そゆこと」

ち「キラちゃんは、どうすんの？」

キ「俺は何か適当にパクるから！」

キ「ということで…作戦開始」

狂・ち「お」

一方、外では…

？「お前、俺が誰だか知ってんのか!! AEUのパトリック・コー

ラサワーだ。お前らとは違って、スペシャル様なんだよ」

？「……………」。

ドカン

パ「あつ！？」

？「……………」。

ち「動いたけど、操作し辛い！！」

狂「およう、ちろる君よ！アソコにコーラサワーがいるぞ」

ち「まじでえ！」

兵A「ガヴェインを返せえー！！」

兵B「我々はKMFで支援する、他の者は防衛網をはれ！！」

？「では、私も出撃しよう」

兵B「隊長！！」

狂「キラちゃんの奴、何やってんだよ！！」

ち「ちょっと！隊長機が来たよ！」

？「その機体を奪ったレジスタンス共よ！直ちに投降しろ！！」

狂「あつ、この声は…」

ち「オレンジ　！！」

？「…、私はオレンジではない、ジェレミア…」

狂「知っているから自己紹介はいいよ！！」

ジェ「ほう、死にたいらしな……貴様らあああ！！」

狂「あつ、やべっ!!キレた!」

ち「アホ お!!?」

ジエ「ガヴェインごと、あいつ等を墜とせえ!!」

兵「了解!!」

戦闘開始

一方…

キ「この機体貰いつ!」

乗り込んだ

キ「え〜と…設定をいじって…よし、これでよし!!」

キ「よし、ランスロットクラブ!!行くぜえ!!」

兵A「あの試作機を止めろおお!!」

キ「いい感じだあ、これなら…」

コ「おあと、これから先は行かさないぜえ!!レジスタンス野郎!!」

キ「やべっ!!」

バキンッ フラッグの腕が吹き飛んだ

コ「えっ!!い…いつの間に!!」

?「……………」

コ「邪魔すんじゃないえ!!」

?「エクシア、目標を破壊する」

ズバッ

コ「お…俺は…スペシャルで…2000回で！…模擬戦なんだよお
く！！」

ドカン エクシア、フラッグを破壊

キ「うひゃあゝやるなあ。」

？「……」

キ「さて、早くちろる君らに合流するかあ！」

キラはちろるの元へ急いだ！

一方、ちろる達は…

ち「狂学者！はよ、どうにかしてやー！」

狂「ハドロン砲、用意ー！」

ジエ「ん？いかん、退避しろおおー！」

狂「ハドロン砲…発射!!」

ビシューーン

ドン

狂「威力ハンパねえ!」

ジェ「おのれえ、レジスタンス共」

ジェ「この私が葬って……」

キ「させるかぁ　!!」

サザーランドを蹴飛ばした

ジェ「ぐっ!!おのれ」

狂「やっと来やがった」

ち「遅せよ！！？死ぬかと思ったわ！」

キ「へいへい」

ジエ「貴様あゝ！！よくも！！？」

キ「長居は無用！離脱するぞ」

狂・イ「了解ゝゝ！」

ジエ「おのれゝ、おのれゝ！！？」

キラ一行：

キ「さて、ガヴェーインも手に入ったし、戦力がふえたなあ！！！」

狂「やっぱり、ハドロン砲は最強だわ」

ち「操縦する身になってみるやあ！！」（ 0 ）／”」

イ「俺は…暇で暇で…うつろ…うつろ…」

ビュン

一同「!!!?!」

キ「ビーム兵器!?!」

ち「あ…あれは………」

一同「ガンダムだあああああ!!!」

次回に続く

強奪ひゃっほおおー!! (後書き)

ガンダム3機VSKNF(キラ一行)

仲間入り（前書き）

さあさあ、キラ達の運命は！？

仲間入り

キ「エクシアだ！逃げるー！？」

イ「待てよー！！？」

ち・狂「いやあー！！？」

？「ちよつと、待って！！？」

その声を聞いた時…

キ「ん？」

狂「キラちゃん、早よにげようや！！？」

キ「ちよつと、待って！。まさか…女の子？」

狂・イ・ち「（。（ハア？」

？「そーだよー!!」

キ「（何か聞き覚えのある声だなあ？）」

キ「パイロット!!そのヘルメットを取れ!!」

イ「流石に…」

狂・ち「取らないだろうなあ」

？「ん？いいよ!!」

イ・ち・狂「いいんかい!!？」

カポッ

？「とつたよ！（^ ^）／」

キ「……………ぷっ」

イ・狂・ち「（*。0。）」

？「あれ〜？、何がおかしいの？ねえ？」

キ「まさか、…エクシアのパイロットが…ぷふっ」

イ「なあ…あれ、「唯」じゃねえ〜」

狂「…嘘だあ！！」

認めたくない人

ち「……」

放心状態

キ「当ててあげよう。君の名前は唯だろ！」

唯「すごい！！超能力！？」

キ「まあ、それはおいといて、何か用？」

唯「実は君達の力を借りたいんだよ!」

キ「ちょっと待ってよ!」

会議中…

キ「どうする?」

イ「どうって…勿論、OKさ?」

狂「お前、目的が違っだろ?」

ち「どっちでもいいや」

狂「おい?」

キ「参加でOK?」

ち・イ「OK!!!」

狂「ハアゝ？わかったよ」

キ「ということで俺たち、参加します！！」

唯「えっ！本当！？」

キ「顔近い！！／／／」

唯「ちょっと、待ってて！！」

キラ一行「大丈夫かな？？？」

くストレマイオスく

唯「たっだいま」

キ「へえゝ」

狂「ちゃんとしてる」

イ「」

ち「女の子しかいねえ（＾　＾）／」

「司令室」

？「来たわね……」

唯「さわちゃん、連れてきたよー！！」

さ「艦長よ？」

キラ一行「（。　。　）」

さ「あらっ…どうかした？ねえ、反応してよー！」

正気に戻る

キ「あっ、いえ…何でもないです」

さ「改めまして、私が艦長の山中よ。宜しくね!」

一同「宜しくお願いしまゝす!（^ ^）／」

さ「実はね!君達に早速お願いがあるのよ!」

キ・イ「はい?」

さ「唯ちゃん、二人を連れっけてあげてちょうだい」

唯「はい じゃあ、付いて来て」

キ・イ「?」

さ「それと…あなた達は今回行つ作戦を説明するから」

狂・ち「はい」

キラとイッシイは…

唯「此処だよ」

キ「此処でなにすんの？」

唯「技術部員が作った新型KMFのテストパイロットだよ」

キ「本当だ！ちゃんと二機ある…」

イ「でも、何で俺たち？」

唯「私達の組織にKMFをまともに操縦する人が居なくて…」

キ「まあ、理由はどうあれ…俺たちしか居ないなら…やるよ！」

イ「俺も」

唯「ありがとう（＾　＾）／」

キ「それじゃあ、二機とも姿を拝見しようか」

バサッ 機体の周りの布をおろす

キ・イ「こ…これは！？（。0。）」

唯「そう、これが作られたKMF。ランスロットとヴィンセントだよ」

キ「これに…俺たちが」

イ「乗る…のか」

唯「それじゃあ、早速乗ってみて」

キ・イ「お…おう」

早速乗ってみた

キ「前に乗っていた奴と違うなあ」

イ「俺はもう…うはうはだよ」

？「二人とも、聞こえますか？返事をしてください！」

キ・イ「はい」

？「良好のようですね。私はオペレーターの小野といいます。よろしく願います」

キ・イ「よろしくお願いします。」

イ「あつ、ちなみに小野ちゃん。名前は…」

小野「優里華ですけど、何か？」

キ「じゃあ、呼びやすいように「ゆりっぺ」で…」

ゆ「は…はあ？」

ゆ「では、本題に入ります！今回は新型KMFの性能テストを開始します」

ゆ「発進したら、新宿ゲッターの敵KMF部隊を殲滅してください！」

キ・イ「了解！」

ゆ「あくまでテストです。深追いをしないで下さい！」

キ「分かったよ」

ゆ「では、ランスロット発進スタンバイしてください！」

キ「ゆりっぺ、敵部隊の情報… please！」

ゆ「はいっ、データを転送します！」

キ「……………なるほど」

ゆ「キラさん、いつでも出撃可能です！」

キ「了解！ランスロット…MEブースト！！」

ゆ「ランスロット…発進！！」

ギユアー

唯「うわあ、いきなりフルスロットルかあ」

キ「マニュアル以上だ！これなら」

ゆ「ヴィンセント、発進準備完了！！」

イ「行きまーす！！」

イツシイ、キラの後を追う

合流

イ「えーと、今回の作戦は何だっけ？」

キ「話し聞いとけよ？。まず、この機体に慣れて、それから戦闘データを取るのが今回の作戦だ。OK？」

イ「OK」

キ「大丈夫かよ？」

二十分後…

ゆ「ある程度慣れましたね。これより敵サザーランド部隊と戦闘して貰います！試作機なので無理をしないように。」

キ「OK 分かったぜ」

ゆ「では、がんばってくださいね」

サザーランド部隊…

兵A「イレブンを皆殺しにしろ！」

発砲…

イA「ひいゝ？」

イB「ぎゃああゝ！！」

兵B「イレブンは死ねえ！」

ビュンツ スラツシユハーケンを射出

サザーランド一機破壊

兵A「何！？」

兵C「なんだありゃ？サザーランドにしては……」

ズバツ

兵A「コイツ！！」

発砲

スラッシュハーケンで飛んで…サザーランドにかかと落とし

キ「いける!!この機体なら一気に!!」

隊長「何をもたもたしてる!!」

兵A「すみません!敵が来ました!」

隊長「ん?イレブン共の増援か?数は…」

兵A「一機です!ぎゃああゝ!!」

隊長「おいっ!!どうした!?!」

兵B「た…隊長!!も…もう一機来ま…ぎゃああゝ!!」

隊長「くっ!敵は二機だ!取り囲んで破壊しろ!」

兵士一行「YES MY ROAD!」

キ「ゆりっぺ！状況は」

ゆ「住民の避難はまだです。先程、キラさんの所にユニオンの部隊が向かっています！」

キ「まじか！？……イッシイはサザーランド部隊を頼む！俺はユニオンの連中を相手して……」

ゆ「駄目です！」

キ「何で！？」

ゆ「武装をしてないのに……危険です！」

キ「ごもつともです？」

イ「もし～！！キラちゃん」

キ「何？」

イ「サザーランド部隊が後退して行くぞ！」

キ「何！？ゆりっぺ、どうなってるんだ！？？」

ゆ「分かりませんが、住民の避難は完了しているので早急にお戻りください！」

イ・キ「…了解した」

テスト稼働& a m p・データ採取終了…

くプロレマイオスく

キ「ただいま…」

狂「おゝ、キラちゃんとイッシイよ！！実はビックニュースがあるだよ」

イ「ビックニュース？」

ち「僕たち、ソレスタルビーイングの仲間入りするんだよ！！！」

キ・イ「(°。°。) /」

狂「もちろん キラちゃんとイッシイもだよ」

キ「まじ!?!」

イ「きたあゝゝ!!!(^ ^) /」

キ・狂・ち「何があゝ!?!」

さ「まあまあ、良いじゃないの」

キ「あつ…艦長」

さ「今夜は我々の組織に増えた仲間の歓迎会よゝ!!」

一同「やったあゝゝ!!!(^ ^*) /」

キ「(大丈夫かな?この組織……?)」

仲間入り（後書き）

次回…捕虜奪還作戦！

捕虜奪還作戦 前編（前書き）

いよいよ、作戦開始日！！

捕虜奪還作戦 前編

キ「ん！？、もう朝か？」

もぞもぞ

キ「ん？」

？「うゝん」

キ「なっ！？」

バツ

キ「うわぁゝ（ゝゝ）ノ！！」

？「ん？何だ…もう朝か？」

キ「いつの間に…人の布団の中にいるんだよ、ゆりっぺー！」

ゆ「部屋が遠いし…帰る気がなかった」

キ「キャラが違うな…おい!!」

ゆ「よく…言われます…ふああ」

キ「そ…それはいいから…朝飯でも食いに行こうか？」

ゆ「はい」

〈食堂〉

？「はい!!Bセット、お待ちどうぞさまです 次の人どうぞ」

ひょい

？「あっ はじめまして、私は憂です。よろしくお願いします」

キ「キラです」

憂「何を食べますか 何でも作りますよ」

キ「うーん…じゃあ、カレーライス」

憂「分かりました（＊ - ＊）」

食事中

狂「おはあゝ、キラちゃん」

キ「……お前にしては、早いな」

狂「ちろる君に叩き起こされた」

キ「なるほどな？」

キ「俺なんか、布団を取ったら……」

ゲシッ

キ「イテエエエ!!」

ゆ「……。」

一枚のメモが飛んできた

キ「???」

〈内容〉

言ったら、殺す

キ「……恐っ!!すみませんでした!」

狂「??」

?「おっ。君、ゆりっぺは腹黒いから気をつけろよ」

ゆ「変な事言わないでください!!?」

キ「……、どなたですか?」

？「おっと、これは失敬。私は立花って言うの、よろしくね！」

立「キミがランスロットのテストパイロット君だよね」

キ「キラです。よろしくお願いします」

立「うんうん、いい返事だねえ。あつ、そうそうキラ君 キミのためにランスロットに「エアキャリバー」っているフライトシステムを開発してね」

キ「エアキャリバー？」

立「うんうん これがあれば空を飛べるし、一緒に付けた銃身をコイルガンと合体させて、「ウァリス」っているのが打てるようになるんだよねえ」

キ「ウァリス…威力は？」

立「コイルガンの二倍〜三倍かなあ」

キ「ちなみに……」

ゆ「これより、捕虜奪還作戦の作戦会議を行います。パイロットは速やかに作戦会議室に集合してください！繰り返します、パイロットは速やかに作戦会議室に集合してください！」

キ「えっ、ゆりっぺ？さっきまでいたのに…って居ねえ！？」

狂「キラちゃん、早よ行こうや！」

キ「お…おっ」

「作戦会議室」

さ「みんな居るわね。これより作戦会議を始めます！ゆりっぺちゃん、あとお願い」

ゆ「（みんな、ゆりっぺで定着してる…まあいいか）」

ゆ「今回の作戦は、フジサンにある捕虜の収容所にいる仲間を救助することです！敵はサザーランドやフラッグなどで編成されています。ちなみにモルドレッドやトリスタンなどの機影が見られるので注意をして下さい！」

一同「了解!!」

さ「では、各自準備をしなさい!解散!!」

「格納庫」

立「おつ、キラ君 ランスロットにエアキャリバーを付けたから前より速くなってるから気をつけてね!」

キ「分かってますよ、立花さん。」

立「も、秋穂でいいよ」

キ「それじゃあ、秋姉。^{あきねえ}頑張つて、戦闘データを取ります!」

秋「うんうん、それじゃあねえ。いいデータを期待してるよあ」

ゆ「今回の要はキラさんとイッシイさんです!」

キ「えっ！？イッシイも！！」

ゆ「はい、お二人は皆さんが陽動してる間に収容所に潜入し、捕虜を解放してもらいます」

キ・イ「人数は？」

ゆ「二人ですが、二人共ガンダムのパイロットです！」

キ「なるほどねえ…了解した」

ゆ「それでは、発進してください！」

キ「ランスロット・エアキャリバー、MEブースト…発艦！」

イ「ヴィンセント・エアキャリバー…発艦！」

狂「ガヴェイン…」

ち「発進！！」

唯「エクシア…出るよぉ」

律「よし！！ケルビム…行くぜえー！！」

紬「セラヴィー…行きまーす」

ゆ「艦長、全機発進しました！」

さ「では、作戦…開始！！」

次回へ続く

捕虜奪還作戦 前編（後書き）

次回は…波乱な展開に！！

捕虜奪還作戦 後編（前書き）

話しの続きです

捕虜奪還作戦 後編

作戦「捕虜奪還作戦」が開始された

兵「て…敵が接近…！」

隊長「何い！？数は…！」

兵「6機です…！」

？「おやおや、野蛮な奴らが来たねえ…」

？「どうする？」

？「アイツには、悪いけど今回は俺らが相手をしねえと」

？「…わかった」

～収容所近く～

キ「さて、取り囲んでる奴らを蹴散らしますか」

ガキン

キ「コイツの火力ならー!!」

ウァリス発射

兵「な…何だ!? うわああ…!!」

隊長「何いゝ!! あれだけのKMFを…」

キ「ちろる君、狂ちゃん、今から俺とイッシイで収容所に潜入し、捕虜を助け…」

バシユ ハーケン発射

キ「!」 避けた

狂「トリスタンにモルドレッド…まさか!」

キ「ジノとアーニヤか!？」

ジ「へえ、俺らの事を知ってんの」

ア「……」

キ「邪魔をしないで貰おう」

ジ「お前らの邪魔をするのが俺らの仕事だ」

ア「だから…死んで」

キ「俺らは死なねえよ!!」

ジノ・アーニヤ戦闘開始

ア「消えて…」

四連装ハドロン発射

キ「おつ」と

避けるが…

ジ「隙あり〜!!」

ガキン

キ「（時間がない）」

ア「これで」

バシユ　ハーケン発射し、モルドレットを足止め

ち「キラちゃん、早よ行けー!!」

狂「俺らが相手をするから」

キ「二人共…頼んだぜ!」

イ「キラちゃん、早くしないと時間がないよ」

キ「分かってる」

ジ「行かすかよ！」

狂「ハドロン砲…発射!!」

バシユ

ジ「おっと…」

ドカン

ア「ジノ、収容所の守りが…」

ジ「ぐっ、他の奴は何してやがる」

く収容所内く

兵「おらっ、キリキリ歩け!!」

?「…っ!!」

隊長「お前らはこのままブリタニア本土に移送する、そこで…」

キ「その子を…」

イ「放せえ!!」

兵「なっ!!?ぐわっ!!」

隊長「ガキがあ!!」

パンツ 撃った

キ「バーカ!当たんねーよ」

パンツ

隊長「お…おのれ」

バタッ

キ「大丈夫かい？」

？「うん、助かったよ。あともう一人が奥に…」

キ「イッシイ頼むぞ！」

イ「了解つと？」

？「君は一体…」

キ「俺の名はキラ。最近、君らの組織に入った。よろしくう！！」

？「私は…」

キ「知ってる。君の名は漣だろ」

漣「メンバーに聞いたんだろ」

キ「えっ、違うけど…」

ピピッ 通信

イ「もう一人を助けた、これよりそっちに合流する！」

キ「OK！分かった」

ピピッ

キ「ゆりっぺ！二人を救出した」

ゆ「了解しました。しかし、先程入ってきた道が隔たれているので別の脱出ルートを転送します」

キ「OK！」

イ「おい」

キ「急いで脱出するぞ」

キ「さあ、早く乗って！」

漣「分かった」

イ「ほら、梓も早く」

梓「はい」

キラ達は脱出ルートへ向かった

く一方く

ち「ハドロン砲はあと一発しかないよ」

狂「けど、まだスラッシュハーケンが…」

ジ「さっきまでの威勢はどうしたあー!!」

ズバッ

ち「左腕が!!」

ア「邪魔だから消えて」

四連装ハドロン砲が直撃

ち・狂「うわあああゝ!!」

ゆ「早く脱出してください!!」

狂「まだ…もう一発残ってんだよ」

ア「これで最後」

バシユ

ア「!!」

モルドレットにかすった

ジ「アーニャ!!」

ち「このまま、ストレマイオスに戻るよ!」

狂「ギリギリ保ったか」

狂学者・ちろる帰還

ガヴェイン修理不能

くキラ達は

キ「イッシイ、そろそろ外に出るぞ」

イ「キラちゃん!前!!」

キ「!?!」

？「ここから先は行かさない！直ちに降伏しろ！！」

キ「スザク！！」

漣「これはやな奴に会ったな。」

ス「もう一度言う！大人しく降伏しろ！！さもなくば……」

キ「…どうしたら」

梓「キラさん！天井にヴァリスを撃ってください！」

キ「！」

漣「梓の言う通りにしたほうがいい」

キ「分かった！」

天井にヴァリスを撃った

ス「！」

イ「天井が薄いからすぐ外なんだな」

キ「飛んで逃げるぞ！」

ス「待て！！」

全員脱出

ス「くっそー！！」

キ「あぶねえ？」

イ「マジでギリギリだった！？」

漣「まあ、助かったんだ。別に良いじゃないか」

梓「そうですよ」

キ「それもそうだな」

イ「さて、帰りますか」

作戦終了

次回にご期待！！

捕虜奪還作戦 後編（後書き）

次回 黒の騎士団と同盟

新たな仲間！？（前書き）

ストレマイオスに生活して五日目…

新たな仲間！？

捕虜を奪還して3日後、事件は起きた

キ「（-|-）。zzz…」

もぞもぞ

キ「（またか！？）」

そろゝ…

漣「（-|-）。zzz…」

キ「………」

サッ…

キ「あ…あれ？」

バツ…

キ「な…何て格好で寝てるんだぁー!?!」

漣「うゝん…」

ガバツ…

ジ…

キ「な…何か??/」

漣「えへへ?」

キ「ね…寝ぼけているだぁー!?!」

ダキツ…

キ「いやっ…ちよっ!?!?!」

ボディーブローが炸裂

キ「ふごっ！？」

キ「ふ…不覚…ガクッ」

バタッ…

？「…ふあゝ（…ゴシゴシ」

正気になる…

漣「あっ！？しまった！だ…大丈夫か？？」

キ「YES…my…ガクッ」

漣「起きろー！」

さらにもっ一発…

キ「バルさあー！？」

さらにダメージ…

漣「ああ？またやってしまった！」

キ「あ…朝に二回殴られるとは…浅はかなり！」

〈食堂〉

憂「あつ！おはようございますって、どうしたんですか？？」

キ「いろいろあって…ね。ハハハッ…ハア？いつものお願い…」

憂「だ…大事にしてくださいよ？」

漣「すまん！本当にすまん！m(_____)m？」

キ「もういいって…」

漣「いやっ、寝ぼけて君を殴ったんだぞ！…二回も…？」

キ「あのさあゝ、いい加減に名前と呼んでよ」

漣「いやっ、その／＼」

キ「？、男の名前を呼ぶの嫌なの！？」

漣「その…恥ずかしい！！／＼」

キ「名前を呼ぶだけだぞ！？」

狂「…朝から大変だねゝ、お二人さん」

キ「そういうお前も大変そうだなあゝ。」

狂「一昨日から徹夜続きでキツいんだよ（ノ―）」

漣「何で徹夜を？」

狂「ガヴェインがぶっ壊れたせいで新たな機体を作成中なのさ…だから徹夜してんの」

漣「ふん…」

キ「そういえば、秋姉えから聞いたんだけど、漣が昔乗ってたガンダムを改良し過ぎて、ものすごい奴になったってさ」

パクパク… カレーライスを食うキラ

漣「そうなのか！？一体、あの人はなに考えてるんだか…？」

ち「おはよう諸君」

キ・狂「おはあ」

ち「何を話してたの？」

漣「私のガンダムが改造された話だ…！」

ち「大変じゃね」

漣「妙にニコニコするなー!!」

キ「まあまあ落ち着きなよ。そもそも、ちろる君が…」

ゆ「緊急連絡!!前方に敵部隊を確認!!至急、第一戦闘配備!!」

キ「食事中に襲ってくるとはいいい度胸だ!!…皆殺しじゃあー!!?」

一同「(っ…後ろに…は…般若が!??)」

兵A「ストレマイオスを確認しました!」

隊長「攻撃開始…」

「ストレマイオス」

ゆ「敵部隊が交戦して来ました!艦長!!」

さ「わかってるわ!ガンダムチーム、出げ…」

ゆ「あつ、待ってください…キラさんが勝手に発艦します!」

さ「ちよっ…キラ君何してるの!??」

キ「…食事の邪魔した奴らを消します…邪魔しないで下さい」

さ「…（目がやばいわね…好きにさせるかあ?）」

さ「それじゃあ、全機撃破してね」

キ「…了解」

兵A「た…隊長!?!じょ…上空より敵機!」

隊長「何い!?!数は…」

兵A「一機です!」

上空

キ「敵…発見。破壊する」

ガキン ヴァリス（ハドロンモード）

キ「消えろおおー！！？」

兵「ぎいややややー！！」

隊長「な…何やってる？…敵はたった一機だぞ！」

兵A「で…ですが…ガガッ…ピー」

隊長「Q1！？どうした！？」

兵B「た…隊長！？ランスロットのパイロットから通信が…」

隊長「何い！？」

キ「降伏してください…戦う意思の無い者は自分は撃ちません…たぶん」

隊長・兵「（た…多分！？？）」

隊長「こ…降伏などするか！！」

キ「やはり…そう答えますか…なら食事を邪魔した恨みをアナタに晴らします」

隊長「何故！？」

キ「理由は…アナタのせいで…朝食を中途半端に残してきちまったんだよおおー！！？」

隊長「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい…ぎゃあああああ！！」

兵「た…隊長ー！！！！？」

キ「スッキリした…ん？」

キラの目にしたのは…イレブンの家族の死体とまだ生きている女の子

キ「…アナタ達、あれ…どういうこと!？」

兵B「あれは?その…」

キ「てめえら……消えろおおー!!!？」

兵B「ぎいややややー!!」

ランスロットから降りてそばによる…

キ「…おいつ?大丈夫…か?怖い人はいないぞ」

ガガッ…

ゆ「キラさん、どうしました?」

キ「ゆりっぺ?…今、人質らしき女の子を発見したんだが…」

ゆ「?、どうしたんです?」

キ「…艦に連れ帰る」

ゆ「わ…分かりました。皆さんに伝えておきます」

ブチッ…通信を切る

キ「じゃあ…ついてきてくれるか？」

女の子は頷いた…

く帰艦く

秋「キラ君お疲れく　ん？その子が保護した…」

近づくと…キラの後ろに隠れる

秋「……ぐすっ？」

キ「まあまあ？」

キ「じゃあ…ついてきて…くれる?」

?「」

〈司令室〉

キ「失礼しまーす」

さ「お帰りなさい」

キ「…何してるんですか?」

さ「何って、ティータイムだけど?」

キ「いやっ、それは見れば…分かるんですけど…」

紬「キラ君も座って座って」

律「此处に入ったら、ティータイムしないといけないんだぞ!」

漣「んなわけ無いだろ!!?」

?「」

キ「まあまあ、あまり大声で叫ぶのは…」

漣「あ…すまん?」

さ「さて、本題に入るわね。その子の面倒…誰が見るかよね!!」

キ「そこ!?!」

唯「私が見る!!」

近づくと…サッとキラの後ろに隠れる

唯「ガ(。(;)ン!」

漣「私は…」

？「…」 首を横に振る

漣「駄目かあ？」

ち「…キラちゃんは？」

？「…」 頷く

キ「へっ！？？」

さ「キラ君に決定っ！」

キ「（。。。）ハア？」

漣「大丈夫だ！私もいる！！」

キ「…ならいいや」

梓「そういえば…その子の名前は？」

キ「あっ！……！？そっだ、君の名前は！？」

？「……明日……華」

キ「明日華……っていうんだね？」

明「……うん」

一同「よろしくね！明日華ちゃん」

明「う……うん／＼」

新たに仲間！？が加わった

新たな仲間！？（後書き）

次回…狂学者の機体がついに…

いざ宇宙（そら）へ向けて準備！（前書き）

何か精神的に疲れた

いざ宇宙（そら）へ向けて準備！

キ「（――）zzz……」

明「キラ兄様、朝ですよ！」

ユサユサ…

キ「ん！？…明日華か？」

漣「おいっ！キラ起きろ！朝食の時間だぞ！」

キ「？、あれっ？珍しく布団に潜り込まなかったんだな（*。。（ノ」

漣「うつ／＼うるさい！！／／」

バキッ…

キ「ぐはっ！？」

明「なにすんですか！？キラ兄様は私のものですよ！」

漑「な！？何をぬかす！！」

喧嘩中…

コソッ… 部屋から逃げようとする

明・漑「おいっ？逃げるなあー！！」

キ「ぎゃあああああ！！」

（食堂）

キ「……」

明？漑

キ「あのー、あまり見られると……た……食べずらいんだけど？」

明・漣…キツ 睨む

キ「いえ…何でもないです…？」

狂「ふあゝ…おはよーキラちゃん！」

キ「なあ、助けてくれ(。°。°?)」

狂「何だよ！？急に…！」

明「兄様…！私と朝食と一緒に食べるですよ…！」

漣「何を言ってる！私とだ…！」

狂「何これ…修羅場になってんぞ…！」

キ「だから、助けてくれ…！！？」

狂「知らん…！」 キツパリ…！！

キ「えっ！？ちよっ…」

明・澪「さあゝ一緒に食べましょ？？」

キ「い…いやだぁー！！………あああああゝ」

ゝ格納庫ゝ

キ「や…やつと解放された？」

秋「あつ、キラくゝん。ちょいと来て」

キ「？」

秋姉えからこんな相談が…

秋「実はね 狂君の機体を造つてた時ねゝ、なんと新たなMSの設計を思いついたのだ！！」

キ「はあゝ」

秋「ふっふっ、さあ聞くがいいその機体の名は………あっ、決めてなかった!」

ズルッ…

キ「ハハハッ? ちなみに性能は?」

秋「えっとなえ、ビームバリアーと折りたたみ式のビームソードと…」

キ「武器の事じゃなくて…?」

秋「んっ、簡単にいうと近接・射撃が出来る万能型なんだよ」

キ「へえっ(やっと、まともな話しになった)」

秋「まあ、実際に見た方が良いかもね」

「整備室」

秋「ガンダムハルートの隣にある奴だよ」

キ「あ…あれって!？」

秋「どうどう? 凄いでしょ」 頑張って造ったんだよ!!」

キ「…秋姉え、名前決まってるじゃないよね…まだ。」

秋「おっ! ? 名付け親になるの」

キ「デステイニーガンダムでどうよ!!」

秋「デステイニー…「運命」って意味かあ…よしっ!! じゃあ、あの機体は「デステイニーガンダム」と名付けよう」

キ「デステイニー…か」

キ「んじゃあ、パイロットはキラ君ね」

キ「うんうん(…)(…):…ん! ? 今なんて…」

秋「だからパイロットはキラ君だって言ってるじゃん！」

キ「（。。。）ハア？」

秋「だって、キラ君が拾った明日華ちゃんが勝手にランスロットを愛用しちゃって大変なんだから」

キ「いやいやいや！？何でアイツがランスロットなんかに！？」

秋「いやゝ気付いたら、そうなってたしゝ、艦長からの命令でもあるんだよ」

キ「……まあ、仕方ないか」

秋「乗るんならコンピューターに自分のコードを入力してね」

キ「わかりましたゝ」

ゝ司令室ゝ

さ「みんなに集まってもらったのは他でも無いわ！私達は宇宙そらに向
かいます！！」

唯「えっ！？宇宙そら！」

律「でも、何で急に？」

さ「実はね……」

く話し中……

漣「なるほどな……」

梓「確かに無視するわけにはいきませんね」

ち「でも、どうすんの！？その「軌道エレベーター」に設置してい
る衛星レーザーの破壊を……」

さ「勿論ガンダムチームにやってもらっわ」

明「そういえば！兄様の専用機が出来たって聞いたんですが！！」

漣「！、そうなのか！？」

唯「どんなの！？」

キ「専用機じゃねーし、まあいいや。ガンダムタイプで名は「デステイニーガンダム」です」

一同「デステイニーガンダム！？」

ち「デステイニーって、あの！！」

キ「そう、あのデステイニー！！」

狂「秋姉さん、すげえな」

キ「確かに？」

紬「でも、これで……」

律「ガンダムチームが…」

漣「五人に増えたな」

唯「おめでとう！キラ君は私達と同じガンダムのパイロットだよ」
「

キ「お…おっ？」

さ「さて、さっさと宇宙そふにあがりますかぁー！！」

一同「おー！！」

いざ宇宙（そら）へ向けて準備！（後書き）

次回は…軌道エレベーター中継地で戦争じゃあー！！

宇宙（そら）を目指せ！！（前書き）

果たして、どのような戦いになるのでしょうか！！

宇宙（そら）を目指せ！！

さ「みんなー！！今私たちは軌道エレベーター中継地にいます！敵は簡単に行かせてはくれない…そこでガンダムチームとKMFチームを投入するわよ！！」

一同「了解！！」

（格納庫）

漣「よしっ、梓！私達の本気を見せるぞ！」

梓「はいっ！漣先輩！！」

律「私が！ガンガン狙い撃ってやるぜえ！！」

唯「私だって本気になれば！！」

紬「みんなの支援にまわるわ！！」

乗り込む…

ゆ「ジークフリート、スタンバイOKです!!」

狂「よしっ!!…ジークフリート、行きます!!」

ゆ「続いてケルビウム出撃してください!!」律「よっしゃあ〜!」
田井中律「ケルビウム、発進!!」

ゆ「続いてハルト出撃してください!!」

漣「了解!!（しかし、なんでまた…あの人は）」

〜回想〜

キ「よっしゃあ〜! デステイニーで出撃!!」

秋「ちょっとストロップ!!」

頭と頭がぶつかる…

キ「お…おお…いてえー!!」

ち「どうしたんだよ」

秋「いてて、はっ!そんなことよりキラ君!!」

キ「は…はい!」

秋「デステイニーのアクセスコンピューターに自分の設定データを組み込んだ!」

キ「……まだですけど!」

秋「なら…セーフ」

唯「何で何で!?何でセーフなの!」

澪「そうだそうだ!!」

秋「まあまあ落ち着いて?」

さ「何で駄目なの？」

秋「実は……」

「理由の説明中」

みんな、状況を理解した

キ「それならそうと言ってくださいよ!!」

秋「いや、私としたことが……つい」

狂「で、結局キラちゃんは留守番か？」

キ「待てっ、待ってくれ!!まだランスロットが……無理だった？」

律「なんで!？」

明「あ、私が使っているからです!」

一同「何——!?」

秋「待った待った——!! キラ君には別の機体があるから大丈夫だよ——!!」

キ「…また今回みたいなことじゃないでしょうね」

秋「今回は大丈夫——!?」

秋「でもね、今のキラ君の設定にバージョンアップさせなきゃいけないから時間がかかるよ——!!」

さ「……………分かったわ。キラ君もいいのかしら?」

キ「了解しました」

さ「では、各自発進準備——!!」

一同「Yes my lord——!!」

～回想終了～

漣「（設定に時間が掛かりすぎだ、このままじゃあ）」

兵A「羽根付きのガンダムの動きが鈍いぞ！やれー！！」

梓「先輩！！」

漣「はっ！くっ！？」

兵B「あのデカイKMFを落とせー！！」

ミサイル発射…

狂「ぬっ！？見えた、見えた、見えた、見えた」

独楽のように回転し、ミサイルを避ける…

兵B「ば…馬鹿な！！ぐわあー！！？」

回転したまま敵に突っ込んだ…

狂「あははははー!!」

ち「おっかねー!!」

兵C「量産型ネモだ!! 雑魚だ、やってしまえー!!」

避ける、避ける、避ける、避ける…

兵C「何故だ!? 何故当たらない!!」

ち「雑魚があー!!」

兵C「ぎゃあああー!!」

兵D「囲めー!! 囲めば勝てるぞ!」

唯「どうするの!? もつやばいよ!」

紬「ええ、砲撃をする隙が無いわ?」

？「さあゝて、ソレスタルビーイングの猿共、降伏したまえ」

漣「あ…アイツは！？」

梓「な…ナイトオブ라운ズの…」

狂「ルキアーノ・ブラットリー！」

ち「ブリタニアの吸血鬼だ…！」

ル「ほー、猿のくせに私の二つ名まで知っているとは褒めてやろう
！」

狂「라운ズが前線に出てるなんて…」

ち「やばいよ！マジで」

狂「キラちゃん、遅すぎる！早よ来やがれ…！」

ゝ一方、キラはゝ

キ「秋姉え！！早くしないと！！」

秋「もう少し！もう少し待って！！？」

ゆ「キラさん、友軍が囲われました！」

キ「くっ！早くしなきゃ……」

秋「ほいつ、セッティング終了！！キラ君いいよ！！」

キ「分かりました！」

フェイスシフト装甲展開…

ゆ「フリーダム発進スタンバイ！！」

キ「……………発進準備完了！！」

ゆ「フリーダム発進してください！！」

キ「フリーダム！行きます！！」

いざ軌道エレベーター中継地…

「狂学者達は」

ル「さて…猿共は此处で消え…」

兵D「ブラットリー卿！敵が…敵が！！うわあああー！！」

ル「何事か！？」

兵C「ブラットリー卿！敵は一機で突っ込んできます！うわあああー…ガガッ…ガッ」

ル「敵はたった一機なのに何を手間取ってる！！」

兵A「敵がこちらに接近中！！」

キ「もう勝負はつきました！降伏を！！」

狂「キラちゃん！」

明「兄様！！」

ル「おのれ〜！猿風情が？」

兵A「馬鹿めっ！コチラは200機の部隊だぞ！！」

ガシュー…ビーム砲、レール砲展開…

キ「ターゲット、マルチロック…行けえー！！」

ビューン…発射！！

兵A「な…何！？」

ドカーン

兵E「我が軍の3分の1が壊滅しました！ブラットリー卿、いかが致しますか！？」

ル「ぬゝ、猿風情が…調子に乗るな…！！？」

狂「さつきはよくもやってくれたな！！この吸血鬼野郎！！？」

ル「何！？」

ガキンツ…

狂「テメーの血は何色だー！！」

ル「わ…私の血は…あ…赤色だー！！」

ジークフリートでブラットリー卿の機体を叩きつけた…

兵E「ブラットリー卿が…やられた！撤退だ…撤退！！」

狂「よし！！」

一同「最後ひでえー!?!」

さ「さあ、みんな。今から宇宙そらに上がるから帰艦しなさい!」

一同「はい!」

無事みんなは艦に帰艦し、宇宙そらへ上がった!!!
…

宇宙（そら）を目指せ！！（後書き）

（帰艦後）

狂「キラちゃん早よ来んかったけえ、死ぬかと思ったわ！」

キ「俺のせいにするな！こっちだって大変だったんだからな！」

漣「しかし、まあ…あれだけの敵部隊をほぼ壊滅状態にするなんて…」

律「末恐ろしい〜？」

（（；。。）ガクガクブルブル

唯「でも、助けてくれたから別にいいや〜」

キ「てゆうか、みんなどんな目で俺をみてんの！？それよか狂ちゃんが一番恐いんだけど…」

狂「何で俺に何だよ！！？」

ゆ「確かにその通りです!!」

狂「ゆりっぺ!?!どさくさに紛れて納得すんな!!?」

さ「まあまあ、良いじゃない、狂君は鬼畜で!」

狂「誰が鬼畜じゃあー!!?」

イ「(出番がない)。 11(ガン)」

なぜか地上へ!?(前書き)

さあ、今回の話は...

なぜか地上へ!?

今回は出番の少ないイッシイの部屋からスタート!!

イ「ぐうゝ（-_-）。zzz……」

梓「うゝん……」

時計を見る……

梓「…あつ、そうだ…私達は宇宙にいるんだった」

?「ハロハロツ!」

梓「ん…あつ、おはようハロ」

ハ「梓起きた、梓起きた!」

イ「んが!?...んゝ（-_-）。zzz……」

梓「しいゝ!!」 小聲

イッシイに近づく…

梓「……」

ツンツン…イッシイのほっぺを突つつく

イ「んゝゝ…ぐうゝ（・・）。zzz…」

ヨダレを流しながら寝るイッシイ…

梓「ふふっ？」

イ「ん……って何、人の顔覗いてんだよ!!」／＼

梓「あつすみません!つい？」

イ「ああゝ、びっくりしたぜ!!」

カシュー…部屋の扉が開く

キ「おい！起きてるかー！！」

漣「朝食一緒に食べに行こー？」

梓「あつ！はいっ…今行きまーす」

キ「おいっ！イッシイ。また梓を襲ったな」

イ「襲ってねーし！！？」

漣「大丈夫か、梓？」

イ「オイラ信用ねー！！」

梓「…そ…そんな事より早く行きましよう／＼」

キ「…そうだね…行くかー！！」

漣「うん、早く行こっ!」

キ「手を引つ張んなよ」

ハ「飯食うぞ、飯食うぞ!」

梓「分かったから、早く行きましよう」

イ「…はい……」

〈食堂〉

イ・キ「いつただきまーす!」

漣「キラはいつもカレーライスだな!たまには別の物を食べるよ?」

キ「カレーライスが好きなんだよ!あとカフェオレも」

イ「合わねーよ!!その組み合わせ!??」

キ「そういうお前はなんだそれ！！太るぞ！」

ズキーン…

漣「太る…ああもう終わりだ（Ｔ＾Ｔ）」

キ「あ…だ…大丈夫だよ。運動すれば、大丈夫だよ！！」

律「おーす漣！！」

ズーン…

紬「何かあったの？」

梓「キラさんが漣先輩の禁止ワードを言ってしまったんですよ！！」
「？」

紬「ああ？言っちゃったんだね」

律「？」

ひらめいた…

律「キラ！お前に質問する！」

キ「えっ！？」

律「お前の好みの女性はどんな人！！」

キ「なんだその質問！？」

イ「俺は小さい子！！」

キ「ロリコン黙れー！！」

イ「あふっ！？」

殴る…

キ「好みの女性かぁ…ん？でも、女の子は外見じゃなくて…中身だよ！！」

漣「……中身だと!」

キ「えっ!??」

修羅場（T^T）

ゆ「業務連絡!!キラさん、漣さん、梓さん、食事がすんだら艦長室に来てください!」

キ「何だろ?」

梓「とにかく行ってみましょう」

（艦長室）

さ「呼んだのでもないわ!実はあなた達で地上に降下してほしいの!」

キ・梓・漣「えっ!?(。?）」

漣「待ってください！艦長！！なぜ地上に私たちが！？？」

さ「実はね、私たちと協力してくれるレジスタンスのメンバーを連れてきて欲しいの！！」

キ「それ、宇宙そらに上がる前にやればよかったじゃないですか！！まさか忘れてたんですか！？」

さ「うつ？」

キ「（図星かい……）」

さ「わ…私にもいろいろ用事があつたのよ？」

キ「…例えば？」

さ「……………すみません、忘れてました？」

漣・梓「あつ、白状した！」

梓「でも、なんで私達三人何ですか！？」

さ「キラ君は戦力になるし、漣ちゃんと梓ちゃんはマイスターの中で唯一まともなもの」

キ・漣・梓「あゝ？」

キ「ちなみに合流場所は？」

さ「アラスカ北部よ！！そこからオノゴロ島へ向かい、シャトルで宇宙へ上がる…これが経緯ね」

漣「えーと、つまりそこまで護衛しろという訳ですか？」

さ「そういうことよ！！引き受けてくれるかしら？」

キ「僕は別に良いですけど、お二人は？」

漣「…行くに決まっているじゃないか！！」

梓「同感です！」

キ「と言つことですよ！」

さ「分かったわ！準備ができ次第地上に降下してね！」

キ・漣・梓「了解！！」

（司令室）

キ「ということで僕たちは地上に降下することになりました！！」

一同「。。。ハア〜〜？」

漣「まあ、5日間居ないがとつと終わらせるよ」

梓「そういうことなので皆さん留守番をお願いします！」

明「な…なんで兄様も行くんですか！？」

キ「一応、戦力になるし、艦長の命令だもの！」

明「そういうことじゃなくて？」

ポンツ…

キ「すぐに帰るから我慢しなさい！」

明「っ／＼…わ…分かりました。その代わりに無事に帰ってきてくださいね」

キ「分かった、分かった！んじゃ、行ってくるよ」

一同「行ってらっしゃーい！（*。。）」

…こうして、キラ、漣、梓の三人は地上に降下していった！
（一方、アラスカ北部）

？「くっ！？これはきついですね！」

？「姐さん？そんなこと言わないでください！」

？「とは言っても相手はサブフライトで飛んでるからきついっすよ
！！」

兵A「馬鹿め！！そんなもんで空にいる我々を落とすつもりか！？
笑わせる」

しかし…

兵B「じよ…上空より熱源！？？」

ビュン…

兵A「ちょ…直撃！？うわああああ！！」

ドカン…

キ「此方はソレスタルビーイングのガンダムのパイロットです。援
護します！」

？「おお、来てくれたっすね！！」

兵B「なっ！？フリーダムだと！！」

兵C「貴様ー！！よくもー！！」

兵B「よ…よせー！！」

漣「そこっー！！」

ビュン…

バキーン…左足を撃ち抜く

兵C「な…足が」

すると目の前にフリーダムが…

キ「どけっー！！」

ガキーン…

兵C「うわあああ!!」

蹴飛ばした…

サブフライトを奪ったフリーダムはそれをレジスタンスに渡した!

?「空さえ飛べば、こっちのものっす!!」

ガトリング乱射!!

兵B「しまった!!?ぎゃああああ!!」

全機撃破!!

その後、レジスタンス基地へ

?「ガンダムのパイロットさん、降りてきていいよ!」

キ「(何でもここも女ばかりなんだ?)」

漣「おい、キラ！早く降りろ！」

キ「……わかったよ!!」

グラサンをかけて降りてきた…

梓「何でグラサンしてるんですか!?!」

キ「いや…なんとなく」

漣「早く外せ!!」

キ「女ばかりだから、はずいんだよ!」

？「もしかして照れてるんですか？」

キ「ち…違う。決してそういうことじゃなくてノノ」

？「まあ、冗談はさておき、初めまして私がリーダーのクラリカです!…よろしく!」

漣「私は漣、ガンダムハルートのガンダムマイスターだ！」

梓「私は梓です。同じくハルートのガンダムマイスターです！」

結局、グラサンを漣にとられた…

キ「……僕はキラ…フリーダムガンダムのパイロット…だ」

一生懸命、視線をそらすキラ…

漣「…ちなみに私たちの組織内で唯一まともな男だ！！それにガンダムに乗ってるのもキラだけだ！」

ク「へー、凄いつすね〜！！」

キ「そんなことは…無い／＼」

ク「あつ！！一応私もガンダムに乗ってるんですよ！！」

キ「！？さっきの奴か？」

ク「あつ、分かつちやったつすか!？」

キ「名前は「ガンダムヘビーアームズカスタム」でしょ!」

ク「そこまでお分かりつすか!？すごいつすねー!!」

咳払いをする漣…

漣「そろそろ本題に入りたいんだが…」

ク「あゝ住まないつす!ついつい…」

～事情説明～

ク「分かつたつす!オノゴロ島にあるシャトルで宇宙^{そら}にあがればいいんつすよね!」

漣「そういつことだ!」

キ「というわけでよろしく頼むぜ！」

ク「よろしくっす!!」

こうして…キラ達の護衛任務が始まった!!

なぜか地上へ！？（後書き）

次回、キラがやられる！？

護衛任務…アラスカ編（前書き）

アラスカからオノゴロ島を目指せ！！

護衛任務…アラスカ編

護衛任務について2日が経過した…

キ「この調子ならあと…2日ぐらいでオノゴロ島付近だよ！」

漣「今の所…順調のようだな！」

キ「あっ！」

漣「どうした！？」

キ「フリーダムデータベースに新しいデータを書き換えるの忘れてた！」

漣「データ？何の？」

キ「モビルスーツの戦闘データや特性とかをデータにしたものでね！最近、新型が投入されてたから上書きをしないとイケないや？」

漣「大変だな〜？」

キ「ちょっとパソコン持ってくる!!」

ドタバタ…

十分後…

キ「さて、データ作成をやりますか!」

カタカタカタ…

漣「それにしても…」

キ「ん？」

漣「よく、そうやって戦ってきた敵MSのデータを記憶できるなあ」

キ「記憶力だけは自信があるからね」

漣「キラって、昔はどんなことをして…」

ビービービー！！

キ「警報！？」

漣「何があつた！？」

梓「漣先輩！！バグウの部隊です！」

ク「ザフト軍め！！」

ダッ…いきなり走り出すキラ

漣「キラ！？どこに行くんだ！！」

キ「…僕が行ってやつつける！！」

ク「待って！相手はザフト軍のバグウ部隊！！相手が悪すぎるんですよー！！」

キ「それでも僕は!!」

ダッ…

梓「待ってください!!」

漣「梓!!ここはキラに任せよう!!」

梓「それなら私達もガンダムで…」

漣「そんな事したら守りが手薄になってしまう!!…キラを信じよう!!」

モニター画面…

キ「準備完了!!いつでも発進できます!!」

ク「それでは…発進してください!!」

キ「キラ……フリーダム！！行きます！！」

フリーダム発進！！

敵側：

ザA「敵レジスタンスはソレスタルビーイングと手を組んでいるようです！どういたしますか？」

？「知れたことを！MS隊全機発進！！俺もデュエルで出る！！」

ザA「了解しました！MS隊全機発進！！」

？「全機！！この俺に続け！！」

「「「はいつ！隊長！！」」」

一方キラは…

キ「……そろそろ戦闘エリアに入ります」

ピッ…モニター画面

漣「キラ、そろそろ敵部隊が現れるぞ！あと…気をつけるよ」

キ「…わかったよ」

ピピッ…

キ「敵機確認！！」

敵側…

ザB「隊長！！敵MSを確認！！」

？「何機だ！？」

ザB「一機です！」

？「はっ！？たった一機で何ができる！全機攻撃開始！！」

「「「了解！！」」」

ビュンビュン…ビーム乱射

バシューバシュー…ミサイル乱射

キラは…

キ「くっ！」

避ける…避ける！…避ける！！…

キ「下がれ！！！」

ビュンビュン…

バキン…バグウ一機に直撃！

ザC「うわあああ!?!」

ドカン?

ザB「よくも!?!よくも!?!」

ビュンビュン…

キ「くっ!下がれと言ってるだろ!死にたいのか!?!」

ビュンビュン…

バキン…

ザB「直撃!?!つぎやあああ!?!」

ドカン?

?「フリーダム!?!」

ビームサーベルで切りかかってきた

キ「なっ!？」

ガキン…

キ「くっ!君は!？」

?「墜ちろ!フリーダム!！」

距離をとって…

キ「邪魔をしないでくれえ…!」

フルバースト発射!!

バキン

?「うつ!?!うわああ!！」

ドカン？

キ「もう勝負はつきました！降伏を！！」

ザF「た…隊長！？隊長を救え！！」

ビュンビュン…

キ「っ！」

ザF「早く隊長を！！」

ザG「わかった！我々も撤退するぞ！」

敵は撤退した…

キ「ふう〜」

ピッ…モニター画面

漣「お疲れ様、帰艦してくれ！」

キ「了解」

キ「（アラスカでは、ザフト軍と戦闘、ここから先…どうなるんだろっ）」

一方、狂学者たちは…

アロウズに見つかり、戦闘中

狂「くらえっ！！忠義の槍！！」

バキン…

AA「ぎゃあああゝ！？」

ドカン？

律「私ら…」

紬「出てきた意味……」

唯「無いよね？」

それから数分後……

狂「貴様で最後だ！忠義の舞〜！！」

A B「馬鹿なあ〜！？」

ドカン？

殲滅……

一同「……？」

狂「はははは〜」

律「一人でMS二十機墜として……ついでに戦艦を三隻まで沈めやが

った？」

紬「でも、これで軌道エレベーターの衛星レーザーの発射施設まであと少しよー!!」

さ「その通りよー!!」

ビクッ…

唯「さ…さわちゃん先生？」

さ「先生って、ここで言うなあ!!?」

唯「ごめんなさーい？」

さ「まあ、それは置いといて…唯ちゃん！」

唯「は…はい!!」

さ「あなたのガンダムを今から改造するからね!!」

唯「はいっ！……えっ！？今何て？」

さ「だから唯ちゃんのガンダムを改造…」

唯「駄目っ！！？」

さ「だってえ、ダブルオーライザーをたった一人で操作するのは無理よ」

唯「グサッ！！」

さ「大丈夫、一人でも操作出来るようにするだけよ」

唯…考え中

唯「わかったよ…グスン」

さ「さあ！！あと少しなんだから頑張って行くわよ！！」

一同「おおっ！！」

さて、無事に衛星レーザーを破壊出来るのでしょうか！？次回に続く

護衛任務…アラスカ編（後書き）

次回は…オノゴロ島へGO!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5879v/>

Another Century's Episode G

2011年11月23日14時49分発行